(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2019-76342
(P2019-76342A)
(43)公開日　令和1年5月23日(2019.5.23)

(51)Int.Cl.			F I			テーマコード（参考）
A61F	5/451	(2006.01)	A61F	5/451	V	4C098
A61F	5/455	(2006.01)	A61F	5/455		
A61F	5/457	(2006.01)	A61F	5/457		

審査請求 未請求　請求項の数 7　ＯＬ　（全 14 頁）

(21)出願番号　特願2017-204775 (P2017-204775)
(22)出願日　平成29年10月23日 (2017.10.23)

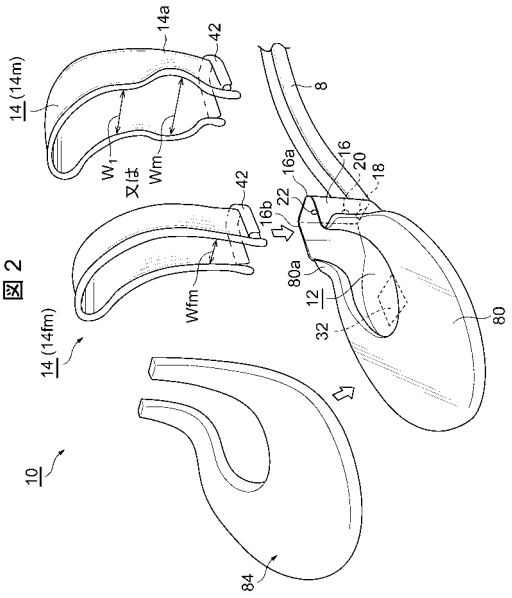
(71)出願人　515338922
株式会社ライフ
東京都千代田区内神田２―１３―８　ＢＭビル４Ｆ
(74)代理人　100098187
弁理士　平井　正司
(74)代理人　100085707
弁理士　神津　堯子
(72)発明者　大西　彬仁
東京都千代田区内神田二丁目１３番８号
株式会社ライフ内

Ｆターム(参考)　4C098 AA09 CC31 CC37 CC38 CD05 CE04 CE11

(54)【発明の名称】介護のための排泄物受けユニット及びこれを装着するための介護用ガーター

(57)【要約】
【課題】女性が特に感じ易い不快感や痛みなどの問題を解消する。
【解決手段】排泄物受けユニット10,100であって、上方に向けて開放した前端部分16に、排泄物を排出する吸引口18、肛門などに向けて洗浄水を吐出する吐出孔20,22を備えた便受け部材12と、便受け部材12とは別体の且つ便受け部材12に連結可能な尿受け部材14とを含み、尿受け部材14は、選択的に便受け部材12に連結される女性用、男性用の尿受け部材14fm,14mを含み、女性用、男性用の尿受け部材14fm,14mの下端が共通の形状の連結部42を有し、男性用尿受け部材14mは、要介護者の陰嚢を受け入れる部分14aが幅広Wmに形成されている。
【選択図】図2

図２



【特許請求の範囲】
【請求項１】
排泄物処理装置の一部を構成し、要介護者に装着される排泄物受けユニット（10,100）であって、
上方に延びる高さを有し且つ上方に向けて開放した前端部分(16)に、排泄物を排出する吸引口(18)、肛門及び陰部に向けて洗浄水を吐出する吐出孔(20,22)を備えた便受け部材(12)と、
該便受け部材(12)とは別体の且つ該便受け部材(12)の前端部分(16)の上端に連結可能な尿受け部材(14)とを含み、
前記尿受け部材(14)は、選択的に前記便受け部材(12)に連結される、相対的に幅狭の女性用尿受け部材(14fm)と、相対的に幅広の男性用尿受け部材(14m)とを含み、
該女性用尿受け部材(14fm)及び前記男性用尿受け部材(14m)の下端が、共通の形状の且つ前記便受け部材(12)の上端に連結可能な連結部(42)を有し、
前記男性用尿受け部材(14m)は、要介護者の陰嚢を受け入れる部分(14a)が他の部分との対比で幅広(Wm)に形成されていることを特徴とする排泄物受けユニット。
【請求項２】
前記連結部(42)が下方に向けて開放した溝形状を有し、該溝形状の連結部(42)に前記便受け部材(12)の前端部分(16)の上端(16b)が嵌合可能である、請求項１に記載の排泄物受けユニット。
【請求項３】
前記便受け部材(12)がトレー形状を有し且つ該トレー形状の上端から横方向に広がって要介護者の臀部を受けるためのフランジ(80)を更に有する、請求項１又は２に記載の排泄物受けユニット。
【請求項４】
前記男性用尿受け部材(14m)に装着可能な陰茎位置決め具(94)を更に有し、
該陰茎位置決め具(94)は、要介護者の陰茎を挿入可能な形状を有する、請求項１～３のいずれか一項に記載の排泄物受けユニット。
【請求項５】
前記陰茎位置決め具(94)が、スリット(94a)により拡径可能な筒状の形状を有する、請求項４に記載の排泄物受けユニット。
【請求項６】
前記尿受け部材(14)が、その内部を目視で観察可能な透明窓と、内部を照明するランプとを有する、請求項１～５のいずれか一項に記載の排泄物受けユニット。
【請求項７】
請求項１～６のいずれか一項に記載の前記排泄物受けユニットを要介護者に装着するための介護用ガーター(64)であって、
腰ベルト(66)と、
該腰ベルト(66)に連結された一対の股ベルト(68)と、
一方の股ベルト(68)の長手方向中央部分から延出して他方の股ベルト(68)に係脱可能な横断ベルト(70)とを含み、
該横断ベルト(70)の一端を前記他方の股ベルト(68)に固定することにより、前記排泄物受けユニットを受け入れる装着窓(72)が形成されることを特徴とする介護用ガーター。

【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、病院、介護施設、家庭などで用いられる介護用の自動排泄物処理装置に関し、より詳しくは、要介護者に装着される排泄物受けユニット及びこれを装着するための介護用ガーターに関する。
【背景技術】

【０００２】
病院や介護施設などでは、トイレに行くのが困難な例えば下肢障害や歩行不能な患者など（以下、「要介護者」という。）のための介護機器として自動排泄物処理装置が用いられている。自動排泄物処理装置は、使用者つまり要介護者の排泄物を受け止めて吸引する機構と、肛門や陰部を洗浄し、そして乾燥させる機構とを有している。排泄物を受け止めて吸引する機構は、その主要な構成部材として排泄物受け具を含む。排泄物受け具は、装着具として設計されたオムツに組み付けられて要介護者の股間に位置決めされる。
【０００３】
特許文献１～５を参照して、排泄物受け具は、尿と大便とを受けるための成型品であり、陰部から肛門まで延びる縦長の且つ側面視したときに湾曲した形状部分を含んでいる。
【０００４】
特許文献１、２に開示の排泄物受け具は発泡ポリエチレンなどの比較的軟質の材料で作られている。特許文献３の排泄物受け具はシリコーン樹脂で作られている。特許文献４の排泄物受け具は、弾性により押圧力を吸収可能なプラスチック材料で作られている。特許文献５の排泄物受け具は、その材料に関する説明は無いが、適度な弾性を有する材料で作られると推察される。
【０００５】
排泄物受け具は、ベッドサイドに配置される処理装置本体との組み合わせで使用される。排泄物受け具は、汚物吸引ホースなどを含む可撓性連結部材を介して処理装置本体と連結される。排泄物受け具には、排泄物検知センサ、排泄物を排出するための吸引口、加温された洗浄水を吐出する吐出孔が設けられている。吐出孔は肛門洗浄用と陰部洗浄用とが用意されている。吐出孔には、加温した洗浄水が供給され、次に、加温した空気が例えば吐出孔に供給される。例えば吐出孔から空気を吐出させることにより排泄物受け具の中及び陰部、肛門周りの乾燥が行われる。
【０００６】
すなわち、処理装置本体は、排泄物受け具の吐出孔に、加温した洗浄水を供給する洗浄機能と、例えば吐出孔に加温された空気を供給する乾燥機能と、排泄物受け具の吸引口からホースを通じて排泄物を含む汚物を吸引する吸引機能とを有している。処理装置本体は、排泄物検知センサなどで要介護者の排泄を検知すると、予め定められた手順で、排泄物受け具から排泄物を吸引し、次に肛門などを洗浄し、次に乾燥させる工程が実施される。処理装置本体の動作は特許文献３に詳述されていることから特許文献３を参照されたい。
【０００７】
特許文献６は、排泄物受け具を幾つかの部材で構成し、各部材を分離可能にした排泄物受けユニットを提案している。排泄物受けユニットは、大便を受けるトレー状の便受け部分と、便受け部分の一端から起立して尿を受ける尿受け部分とが一体的に成形された主要部品を有し、尿受け部分は、要介護者から離れる方向に膨らみを有するカップ状の形状を有し、その上端が上方に向けて開放されている。
【０００８】
特許文献６に開示の排泄物受けユニットは、上記の主要部品に対して２つの部材が脱着可能である。第１の脱着可能部材は、尿受け部分の上端開口に対して脱着可能な屋根部材であり、そしてこの屋根部材は腹部に延びる庇を含む形状を有している。第２の脱着可能部材は、尿受け部分の起立する側縁に対して装着可能であり、主要部品の便受け部分の上に設置されて要介護者の臀部を受ける部材である。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００９】
【特許文献１】特開平４－３６４８４１号公報
【特許文献２】特開２０００－２１０３２２号公報
【特許文献３】特開２００６－５５５１３号公報
【特許文献４】特開２００９－３９４０５号公報

【特許文献５】特開２０１１－２２９８２０号公報
【特許文献６】特開２０１３－２０８３７９号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【００１０】
排泄物受け具は、上述したように、陰部から肛門まで上下に縦長の且つ側面視したときに湾曲した形状部分を含む成型品である。そして、排泄物受け具は、尿と大便とを受けるために要介護者の股間に位置決めされた状態でオムツによって装着される。勿論、排泄物受け具からの漏れを防止するために、排泄物受け具は、特に排泄時には、要介護者に密着した状態が保たれる。
【００１１】
排泄物受け具の尿受け部分は要介護者の左右の大腿部の間に位置する。従来の排泄物受け具は男女兼用であるのが一般的である。男性の場合、尿受け部分の中に陰茎と陰嚢とが収容される。このことから、従来の排泄物受け具の尿受け部分は陰嚢を受けることのできる幅寸法に設定されている。
【００１２】
女性にとって、尿受け部分は陰部と対面できる幅寸法で足りる。したがって、現状の尿受け部分の幅寸法は女性にとって不必要に大きいため次の問題がある。先ず、排尿時に身体に密着させるのが難しくなり、このため尿が外に漏れてしまう可能性がある。また、大腿部の内側が圧迫される要因になり、不快であると共に痛みや皮膚障害を招いてしまう要因になる。
【００１３】
本発明の目的は、女性が特に感じ易い不快感や痛みなどの問題を解消することのできる介護のための排泄物受けユニット及びこれを装着するための介護用ガーターを提供することにある。
【課題を解決するための手段】
【００１４】
上記の技術的課題は、本発明の一つの観点によれば、
上方に延びる高さを有し且つ上方に向けて開放した前端部分(16)に、排泄物を排出する吸引口(18)、肛門及び陰部に向けて洗浄水を吐出する吐出孔(20,22)を備えた便受け部材(12)と、
該便受け部材(12)とは別体の且つ該便受け部材(12)の前端部分(16)の上端に連結可能な尿受け部材(14)とを含み、
前記尿受け部材(14)は、選択的に前記便受け部材(12)に連結される、相対的に幅狭の女性用尿受け部材(14fm)と、相対的に幅広の男性用尿受け部材(14m)とを含み、
該女性用尿受け部材(14fm)及び前記男性用尿受け部材(14m)の下端が、共通の形状の且つ前記便受け部材(12)の上端に連結可能な連結部(42)を有し、
前記男性用尿受け部材(14m)は、要介護者の陰嚢を受け入れる部分(14a)が他の部分との対比で幅広(Wm)に形成されていることを特徴とする排泄物受けユニットを提供することにより達成される。
【００１５】
上記の技術的課題は、本発明の他の観点によれば、
上記の排泄物受けユニットを要介護者に装着するための介護用ガーター(64)であって、
腰ベルト(66)と、
該腰ベルト(66)に連結された一対の股ベルト(68)と、
一方の股ベルト(68)の長手方向中央部分から延出して他方の股ベルト(68)に係脱可能な横断ベルト(70)とを含み、
該横断ベルト(70)の一端を前記他方の股ベルト(68)に固定することにより、前記排泄物受けユニットを受け入れる装着窓(72)が形成されることを特徴とする介護用ガーターを提供することにより達成される。

【００１６】
本発明の作用効果及び他の目的は、以下の好ましい実施例の詳細な説明から明らかになろう。
【図面の簡単な説明】
【００１７】
【図１】ベッドに横たわる要介護者の排泄介護に自動排泄処理装置が用いられている状態を説明するための図である。
【図２】第１実施例の排泄物受けユニットの分解斜視図である。
【図３】第１実施例の排泄物受けユニットの便受け部材の前端部分を前方から見たときの構造を説明するための図である。
【図４】第１実施例に含まれる便受け部材と尿受け部材との連結構造の一例を説明するための図である。
【図５】第１実施例に含まれる便受け部材と尿受け部材との連結構造の変形例を説明するための図である。
【図６】第１実施例に含まれる便受け部材と尿受け部材との連結構造の他の変形例を説明するための図である。
【図７】第１実施例に含まれる便受け部材と尿受け部材との連結構造の別の変形例を説明するための図である。
【図８】第１実施例に含まれる便受け部材と尿受け部材との連結構造の更に別の変形例を説明するための図である。
【図９】第１実施例に含まれる便受け部材と尿受け部材との連結構造の更に他の変形例を説明するための図である。
【図１０】第１実施例の排泄物受けユニットを装着するのに好適に用いることのできるガーターの平面図である。
【図１１】図１０に図示のガーターを使って第１実施例の排泄物受けユニットを要介護者に装着する直前の状態を説明するための図である。
【図１２】本発明に従う排泄物受けユニットに好適に適用可能なクッションの平面図である。
【図１３】図１２に図示のクッションを排泄物受けユニットに取り付ける構造を説明するための断面図である。
【図１４】本発明に従う排泄物受けユニットに好適に適用可能なクッションの他の例の平面図である。
【図１５】図１４に図示のクッションを排泄物受けユニットに取り付ける構造を説明するための断面図である。
【図１６】図１２及び図１４に図示のクッションの内部構造の一例を説明するための断面図である。
【図１７】本発明の排泄物受けユニットのオプションである陰茎位置決め具を男性用尿受け部材に設置する直前の状態を示す図である。
【図１８】陰茎位置決め具を男性用尿受け部材に設置した状態を示す図である。
【図１９】第２実施例の排泄物受けユニットの分解斜視図である。
【発明を実施するための形態】
【実施例】
【００１８】
以下に、添付の図面に基づいて本発明の好ましい実施例を説明する。
【００１９】
図１は、ベッド２に横たわっている要介護者４を示す。要介護者４の排泄に伴う介護は自動排泄処理装置によって行われる。図１では、要介護者４が掛け布団Ｑを使用している状態が描かれているため、ベッド２の脇に位置する自動排泄処理装置の本体つまり処理装置本体６だけが図面に現れている。
【００２０】

図２に示す第１実施例の排泄物受けユニット１０が要介護者４の下腹部に位置決めされる。排泄物受けユニット１０は、汚物吸引ホースを含む可撓性連結部材８によって処理装置本体６（図１）に連結される。

【００２１】

図２は、排泄物受けユニット１０の構成を説明するための図である。図２を参照して、排泄物受けユニット１０を説明する。排泄物受けユニット１０は、便受け部材１２と、便受け部材１２とは別体の尿受け部材１４とを含み、便受け部材１２と尿受け部材１４は別部材である。

【００２２】

便受け部材１２は、横断面コ字状の前端部分１６を備えたトレー状の形状を有し、また、横断面コ字状の且つ上方に延びる高さを有する前端部分１６を有する。前端部分１６の前壁１６aには、その内面つまり要介護者の下腹部と対面する面に、下端から上端に向けて順に、吸引口１８、肛門用の吐出孔２０、陰部用の吐出孔２２が設けられている。

【００２３】

図３は、前端部分１６の前壁１６aを前方から見た説明図である。前壁１６aの外面には、可撓性連結部材８の汚物吸引ホースが接続されるホース接続口２４、加温した洗浄水の供給を受ける洗浄水受口２６、加温された空気を受ける温風受口２８、電気的な接続端子３０が設けられている。ホース接続口２４、洗浄水受口２６，温風受口２８、接続端子３０には、処理装置本体６（図１）から延びる可撓性連結部材８に収容された汚物吸引ホースやケーブルなどが連結される。なお、図２において、参照符号３２は排泄物検知センサを示す。

【００２４】

便受け部材１２の上下方向に高さを有する前端部分１６において、その横断面コ字状の上端部１６bは上方に向けて開放されている。

【００２５】

図２を参照して、尿受け部材１４は、人体の下腹部に沿って湾曲した縦長の細長い形状を有し且つ前方に向けて膨らんだ横断面Ｕ字状の形状を有し、尿受け部材１４の下端は下方に向けて開放している。

【００２６】

女性用と男性用とが用意されている。女性用と男性用とを識別するために、女性用尿受け部材１４には「fm」を付記し、男性用尿受け部材１４には「m」を付記してある。女性用尿受け部材１４fmは、男性用尿受け部材１４mとの対比で相対的に幅狭であり、下端部から上端部まで略同じ幅Wfmを有している。好ましくは、女性用尿受け部材１４fmの下端の幅は極力小さく設計するのがよい。これにより、尿受け部材１４fmを女性に適した幅にすることができる。そして、これにより女性に不快感を与えてしまうのを防止できる。

【００２７】

他方、男性用尿受け部材１４mは、下端部を除く部位の幅W1が女性用の幅Wfmよりも大きい。更に男性用尿受け部材１４mは、要介護者の陰嚢を受け入れる部分１４aの幅Wmが、上記幅W1よりも拡大している。

【００２８】

女性用尿受け部材１４fm及び男性用尿受け部材１４mの横断面Ｕ字状の下端には共通形状の連結部４２が形成されている。女性用尿受け部材１４fmと男性用尿受け部材１４mは使い分けが可能である。女性用尿受け部材１４fmと男性用尿受け部材１４mは選択的に連結部４２によって便受け部材１２の前端部分１６に脱着可能に固定することができる。

【００２９】

男性用尿受け部材１４mは、陰嚢を受け入れる部分１４aの幅Wmが他の部位よりも大きい、換言すれば、下端の連結部４２の近傍の部位が女性用と実質的に同じ幅を有しているため、装着に伴う不快感を与えてしまうのを女性と同様に防止できる。

【００３０】

図４は、尿受け部材１４の連結部４２と、便受け部材１２の前端部分１６との連結構造

の一例を説明するための図である。尿受け部材１４の連結部４２は下方に向けて開放した溝形状、具体的には横断面逆Ｕ字状の形状を有し、この連結部４２を便受け部材１２（前端部分１６）の上端部１６bに嵌合することにより尿受け部材１４と便受け部材１２とが一体化される。尿受け部材１４の連結部４２を横断面逆Ｕ字状の形状にすることにより、要介護者が放出する尿が尿受け部材１４に当たって流れ落ちる過程で連結部４２から漏れるのを抑制することができる。図４の例では、尿受け部材１４と便受け部材１２の双方に爪４４が設けられ、この一対の爪４４によって尿受け部材１４が便受け部材１２から不用意に外れないようにされている。勿論、爪４４無しの尿受け部材１４の横断面逆Ｕ字状の連結部４２の中に、便受け部材１２（前端部分１６）の上端部１６bを爪４４無しで密に嵌挿する構成を採用してもよい。

【００３１】

図５～図９は尿受け部材１４と便受け部材１２との脱着可能な連結構造の他の例を説明するための図である。図５は、両面接着テープ４６を用いた例を説明するための図である。図６は、凹凸部材４８を用いた例を説明するための図である。図７は、ピン５０とこれを受け入れるピン孔５２を用いた例を説明するための図である。図８は、尿受け部材１４と便受け部材１２とに整合する孔５４と、この孔５４に挿入されるネジとナットとの組み合わせ５６とを用いた例を説明するための図である。図９は、例えば、尿受け部材１４の横断面逆Ｕ字状の連結部４２の中に、便受け部材１２（前端部分１６）の上端部１６bを嵌挿させた後に、便受け部材１２に添着された第１布地５８と、尿受け部材１４に添着された第２布地６０とをファスナ６２で第１、第２の布地５８、６０を連結する例を説明するための図である。

【００３２】

図１０は、排泄物受けユニット１０を要介護者の股間に装着するための介護用ガーター６４を示す。介護用ガーター６４は従来のオムツに代わるものである。すなわち、介護用ガーター６４は、図示の排泄物受けユニット１０の専用ではなく、一般的に広く排泄物受け具に適用することができる。

【００３３】

介護用ガーター６４は腰ベルト６６と、腰ベルト６６に連結された左右の股ベルト６８と、左右の股ベルト６８を連結する横断ベルト７０とを有し、横断ベルト７０は、股ベルト６８の長手方向中間部分に設けられている。一方の股ベルト６８から延出する横断ベルト７０の一端部を他方の股ベルト６８に係脱可能に固定することにより、腰ベルト６６と一対の股ベルト６８と横断ベルト７０とで装着用窓７２を形成することができる。図１１から分かるように装着用窓７２に排泄物受けユニット１０が受け入れられる。介護用ガーター６４の各要素は面ファスナ７４によって固定される。横断ベルト７０の一端部を股ベルト６８に係止させる又は離脱させる構造を採用することにより、排泄物受けユニット１０の装着具であるガーター６４に対する排泄物受けユニット１０の脱着を容易に行うことができる。

【００３４】

図２に戻って、便受け部材１２は、好ましくは、要介護者の臀部を受け止めことのできる広がりを備えたフランジ８０を有しているのがよい。このフランジ８０の前端部８０aは、上方に延びる高さを有する前端部分１６の上端まで湾曲して上方に延びる形状を有している。この前端部８０aは、ガーター６４の装着用窓７２の周縁部と係合することができる。

【００３５】

排泄物受けユニット１０は、好ましくは、クッション８４を含んでいるのがよい。クッション８４は、従来から知られている撥水性を備えた外皮でも良いが、撥水性と共に通気性を備えた例えば布製の外皮を備えているのがよい。これにより、褥瘡などの皮膚障害の発生を抑制することができる。クッション８４は、外皮の中に収容されたゲルや空気などを含み、これによりクッション性を有している。図１２は、クッション８４の平面図である。クッション８４は左右対称の形状を有し、上下を反転させて使うことができる。クッ

ション８４は、例えば両面接着テープ８６を使って便受け部材１２のフランジ８０の上面に固定される（図１３）。

【００３６】

図１４は、変形例のクッション８８を示す。図示のクッション８８は、本体８８aから延出する複数の帯９０を有し、この複数の帯９０を例えば面ファスナや両面接着テープ９２を使って便受け部材１２のフランジ８０に脱着可能に固定することにより、クッション８８をフランジ８０の下面に固定することができる（図１５）。

【００３７】

図１６は、クッション８４又は８８の内部構造を説明するための図である。外皮８４a（８８a）の中にクッション材９２が収容されている。クッション材９２は、一方の面に数多くの凹凸９２aを有し、他方の面９２bが平坦な構造を備えているのがよい。凹凸９２aを上にしてクッション８４又は８８を使用したときには要介護者の臀部を点接触により体圧分散することができ、これが嫌な要介護者は、平坦な面９２bを上にしてクッション８４又は８８を使用することができる。

【００３８】

排泄物受けユニット１０はオプションとして陰茎位置決め具９４が用意される。陰茎位置決め具９４は筒状の形状を有し、要介護者の陰茎を、その自然な姿勢である若干下方に差し向けた状態で位置決めするのに用いられる。陰茎位置決め具９４は、陰茎位置決め具９４の入口から長手方向に延びるスリット９４aを単数又は複数有しているのが好ましい。この陰茎位置決め具９４の中に要介護者の陰茎が挿入される。要介護者が勃起したときに、これに対応してスリット９４aによって陰茎根の部分に相当する陰茎位置決め具９４の部位の直径を容易に拡大することができ、これにより陰茎の鬱血を防止することができる。

【００３９】

陰茎位置決め具９４は、その長手方向一端に直径方向に離間した一対のフック９６を有し、この一対のフック９６は男性用尿受け部材１４mの両側縁部に嵌合可能である。図１８は、男性用尿受け部材１４mに陰茎位置決め具９４を設置した状態を示す。陰茎位置決め具９４を用いることで、要介護者の陰茎が上向きの状態で男性用尿受け部材１４mに受け入れられるのを阻止することができる。要介護者の陰茎が上向きの状態で男性用尿受け部材１４mに受け入れられると、放尿によって外部に尿が漏れてしまう可能性が大きくなる。

【００４０】

図１９は第２実施例の排泄物受けユニット１００を示す。図示の排泄物受けユニット１００は、その基本構成及び構造は上述した第１実施例（図２）と同じであることから、第１実施例に含まれる要素と同じ要素には同じ参照符号を付すことにより、その説明を省略する。

【００４１】

図１９を参照して、尿受け部材１０２は女性用と男性用とを有し、女性用には「fm」を付記し、男性用には「m」を付記して識別してある。女性用、男性用ともに尿受け部材１０２は透明の観察窓１０４とその外側に遮光性のカーテン１０６とを有し、このカーテン１０６を開けることにより観察窓１０４を通じて尿受け部材１０２の内部つまり適正な装着ができているか否かを外部から目視で確認できる。勿論、常時は、カーテン１０６を閉めることにより要介護者のプライバシーを守ることができる。好ましくは、尿受け部材１０２はランプ１０６を有し、必要に応じて、このランプ１０６によって尿受け部材１０２の内部を照明するのがよい。

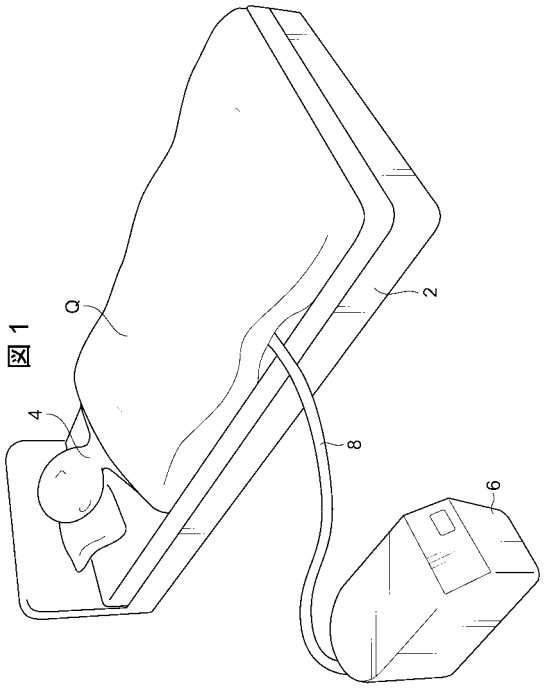
【符号の説明】

【００４２】

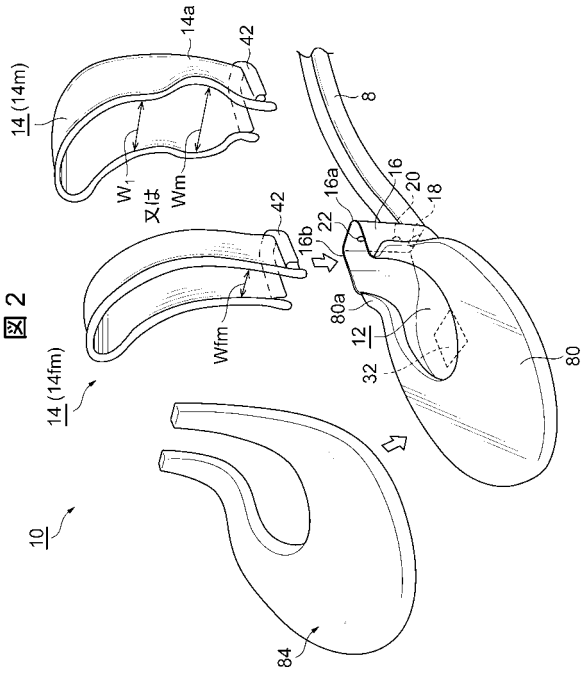
１０　第１実施例の排泄物受けユニット
１００　第２実施例の排泄物受けユニット
１２　便受け部材

１４　尿受け部材
１４fm　女性用尿受け部材
１４m　男性用尿受け部材
１６　便受け部材の前端部分
１８　吸引口
２０　肛門用の吐出孔
２２　陰部用の吐出孔
４２　尿受け部材の下端の連結部
６４　介護用ガーター
６６　ガーターの腰ベルト
６８　ガーターの股ベルト
７０　ガーターの横断ベルト
７２　ガーターの装着用窓
９４　陰茎位置決め具
９４a　陰茎位置決め具のスリット

【図１】

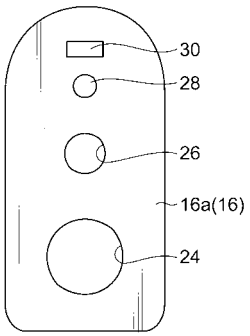


【図２】



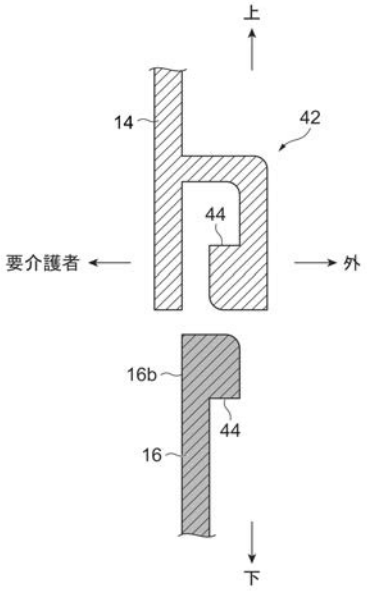
【図３】

図３



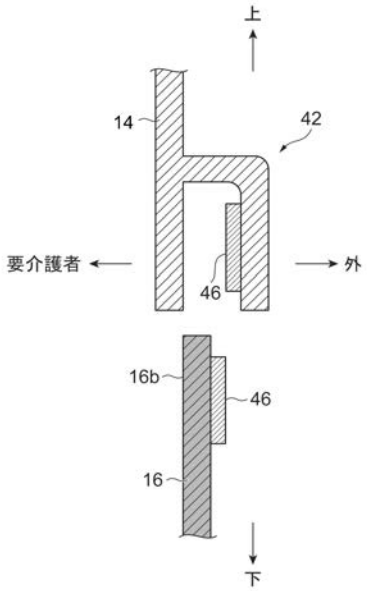
【図４】

図４



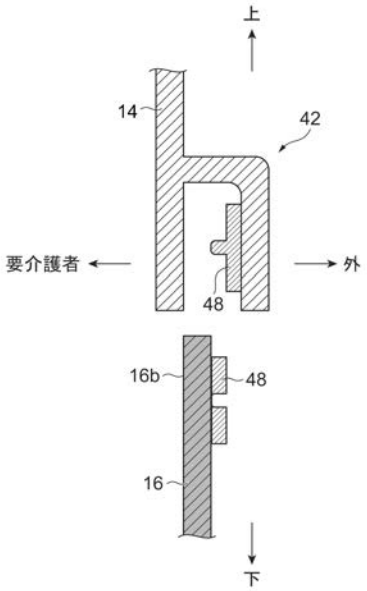
【図５】

図５



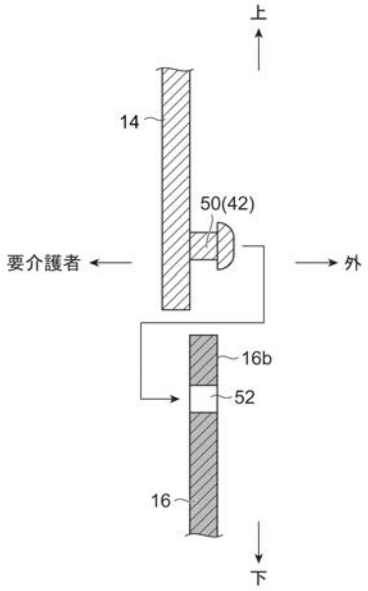
【図６】

図６



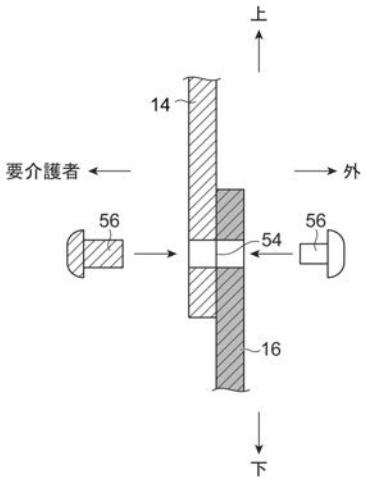
【図７】

図 7



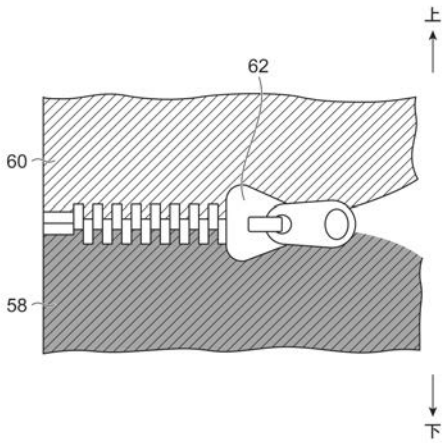
【図８】

図 8



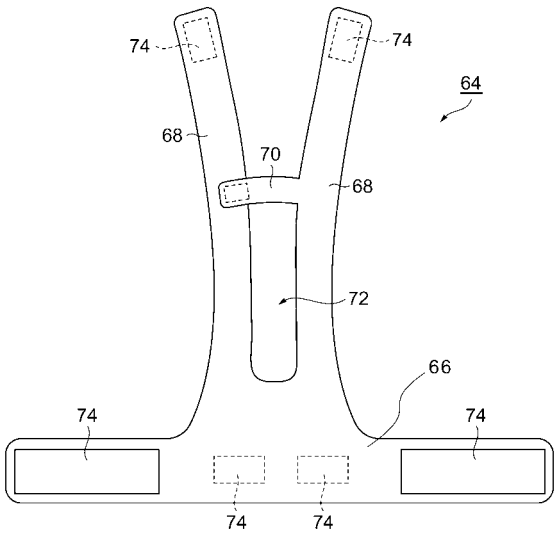
【図９】

図 9



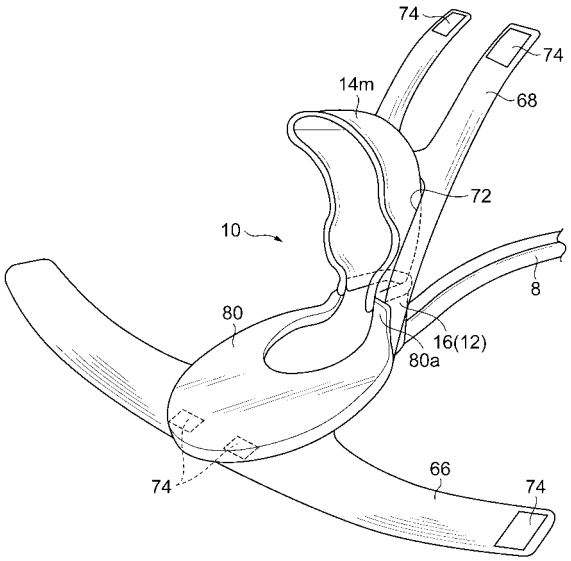
【図１０】

図 10



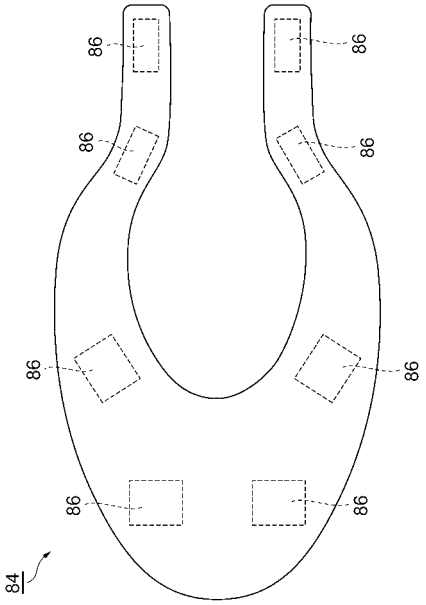
【図１１】

図 11



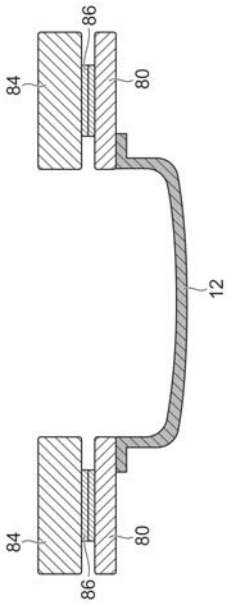
【図１２】

図 12



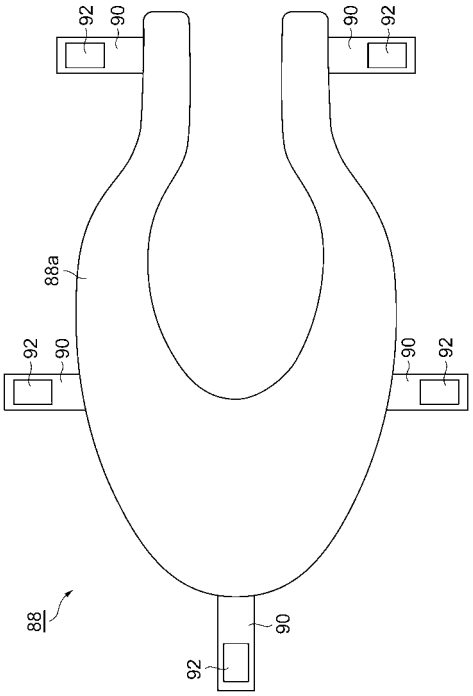
【図１３】

図 13



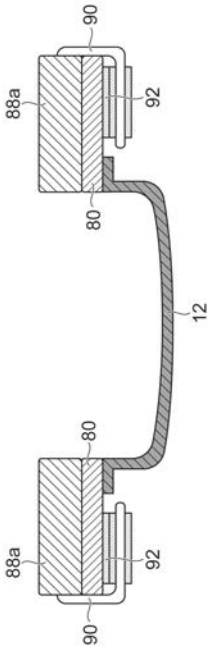
【図１４】

図 14



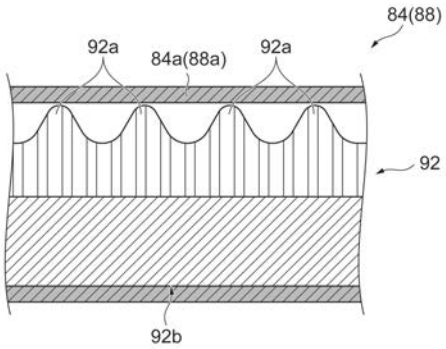
【図１５】

図 15



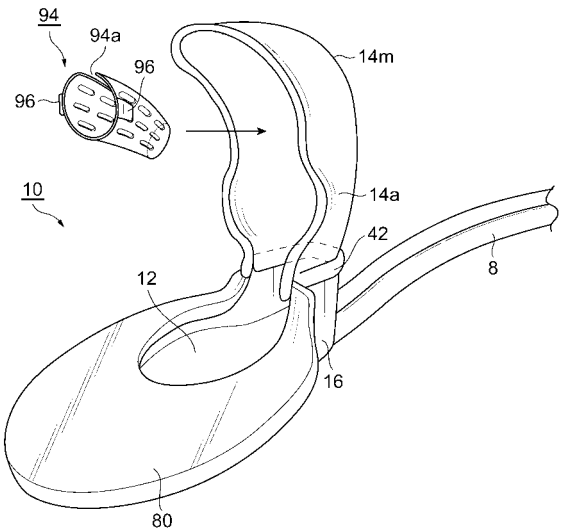
【図１６】

図 16



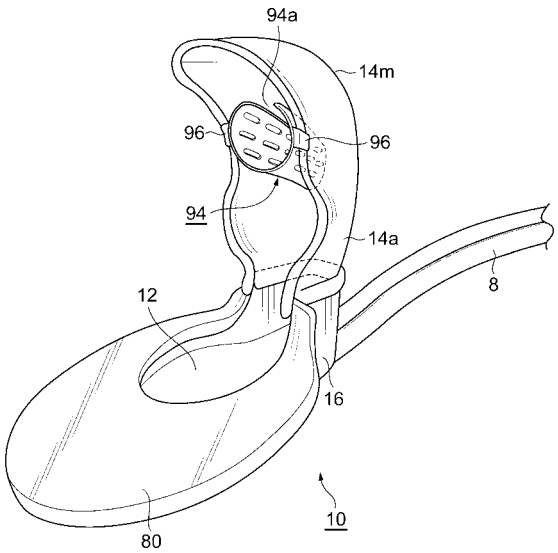
【図１７】

図 17



【図１８】

図 18



【図１９】

図 19

